

## 3人のジャーナリストが本音で斬るフリー座談

接待問題で総務省幹部の大量処分  
人事と放送・通信行政への影響は？

東北新社の菅義偉首相の長男から接待を受けた総務省幹部たちが、国家公務員倫理違反で処分された。その顔ぶれは、放送や通信というわが国の情報政策を形づくる人物であった。本誌が深く取材するテーマであり、強い危機感を抱いた。今後の総務省人事はどうなる。日本の放送や通信のかじ取りはほんろうされていくのか。そこで、メディア動向に詳しいジャーナリストの3人が覆面座談で、忖度しない分析と予想を行った。なお、人名が出てくるが、陥れるものでなく文脈上登場しただけである。(進行・構成:渡辺 元・本誌編集長)



## 旧自治官僚が勢力拡大に動く

—— 総務省幹部の大量処分で、今後の人事が気になる。

**A氏** 谷脇康彦・前総務審議官、山田真貴子・前内閣広報官が辞職し、秋本芳徳・前情報流通行政局長と湯本博信官房審議官(情報流通行政局長担当)は更迭、吉田真人総務審議官以下、吉田恭子・衛星・地域放送課長や井幡晃三・放送政策課長ら旧郵政官僚が軒並み懲戒処分を受けた。放送・通信行政、とくに放送行政を担ってきた旧郵政官僚の中核ラインは壊滅してしまった。

**C氏** 東北新社の菅長男絡みの接待からNTTの接待と芋づるで出てきた国家公務員倫理法に抵触した問題だが、1998年のノーバンしゃぶしゃぶ大蔵省スキャンダルと同じで、許認可絡み。つまり、旧郵政の許認可業務が相変わらずで、パブルの名残かと失笑するほどの感覚だ。

**B氏** 今回の一件が総務省人事に影響を与え、今後の放送行政や通信行政に影を落とすのは必至だ。

**A氏** 谷脇康彦氏は通信行政に精通しているが、放送行政にはあまり携わってきていない。放送行政に詳しい吉田真人氏は実質謹慎で、夏の人事異動で退官となるだろう。以前は、放送

畑には南俊行・元情報流通行政局長らがいる、放送業界ににらみを利かせていたが、秋本芳徳・前情報流通行政局長以下の布陣はかつてほど強力とは言えない。そこに大量の処分が起きた。処分を受けた官僚は、昇任が遅れる。今後の放送・通信行政を背負って立つ人材が出てくるまでにはしばらく時間がかかるだろう。

**B氏** 更迭された秋本氏の後任、吉田博史・情報流通行政局長が引き受ける立場ではないか。

**A氏** 吉田博史氏は棚ぼたで就任したという感が否めないし、「山田真貴子の旦那」というレッテルがついて回る。放送行政も、通信行政も、誰が中心になるのか。旧郵政官僚の間では「もはや、なるようにしかならない」という投げやりな空気になっている。

—— 今夏に人事異動がある。どう予想するのか。

**A氏** 総務省は、自治省、郵政省、総務庁が統合されて誕生したが、今でも人事をはじめ縦割り意識が強烈に残る。歴代の事務次官をみると、当初は3省庁の回り持ちだったが、すでに旧総務庁官僚は排斥され、旧自治官僚が半数を占める。今回、旧郵政官僚が残した歴史的汚点を機に、黒田武一郎・事務次官以下の旧自治官僚が総務省大改革という錦の御旗を立てて総務省内の全面掌握に動くかもしれない。旧郵政官

僚で事務次官を狙えるような人材は当面見当たらず、旧郵政省系3局の局長ポストさえ明け渡さざるを得なくなることも考えられる。

**B氏** 旧自治と旧郵政の官僚間で続く覇権争いに変化があるだろう。今回の処分を機に、人事で旧自治系が仕掛けていくことはあり得る。

**C氏** 総務省は菅総理のシマだが、総務省に強いAさんはどう見ているのか。

**A氏** 官僚の個々の力量を比べると、旧自治官僚の方が旧郵政官僚より相対的にレベルが高いのは周知の事実だ。旧自治官僚が菅首相と結託して旧郵政官僚を封じ込める動きが水面下で語られたことがあったが、顕在化する可能性がある。

**C氏** 今夏の人事で旧自治官僚の仕掛けが見えてくる。そこに菅首相の考えも透けるだろう。

## 放送行政の次の中心軸は誰か

**B氏** 地方の総合通信局長などに出ていたキャリア組が戻ってくるかもしれない。総務省記者クラブ内では、経済産業省大臣官房審議官に出向した小笠原陽一氏が呼び戻されるとの声は多い。

**A氏** 小笠原氏の場合は、以前から行っている総務省と経産省の人事交流なので、戻って来て